

令和3年度 第1回新潟市食育推進会議

日 時：令和3年5月20日（木）午後2時～4時

会 場：古町ルフル4階 402会議室

司 会	<p>ただいまより、令和3年度第1回新潟市食育推進会議を開催いたします。</p> <p>開催にあたりまして、新潟市農林水産部食と花の推進課長坂井よりごあいさつ申し上げます。</p>
坂井課長	<p>皆様、こんにちは。本日は、お忙しい中、またコロナがなかなか収束しない中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。また、本来、昨年度末にこの会議を予定していたのですけれども、私どもの課の都合で延期になってしまいまして、大変申し訳ございませんでした。改めまして、本年度もよろしくお願いいたします。</p> <p>また、こちらの会議ですけれども、平成17年度に国の方で成立しました食育基本法に基づきまして開催されているものです。食育基本法に基づいて、国の方で5年ごとに食育推進基本計画というものを作っておりまして、新潟市でも平成18年度に食育推進条例というものを作って、その翌年に食育推進計画というものを作りまして、5年ごとに更新しているところでございます。昨年度末、国の方では、第4次の食育推進基本計画を作りまして、今年度から5年間の計画になるのですけれども、もう進んでいるところです。新潟市においては、今は第3次の計画中ですけれども、来年度から第4次の計画が始まりますので、委員の皆様におかれましては、今年、計画の仕上げの年ということで、ぜひとも昨年度に引き続き、忌憚のないご意見を頂ければと思います。本日は、2時間という長いようで短い時間になりますけれども、ぜひともよろしくお願いいたします。ありがとうございます。</p>
司 会	<p>本日の進行を務めさせていただきます、食と花の推進課の佐藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の出席者については、座席表にお示しするとおりで、9名のご出席となっております。新潟市医師会の佐藤委員、農園CuRA!の真保委員、県栄養士会新潟市支部の長谷川委員は本日欠席となっております。</p> <p>また、JA新潟市の阿部委員、イオンリテール株式会社の伊佐委員のご退職に伴いまして、新たにご就任いただくことになりました2名の方をご紹介いたします。お名前をお呼びした後、一言ずつお願いいたします。</p> <p>まず、JA新潟市営農経済部次長の高杉和憲様です。</p>
高杉委員	<p>はじめまして、JA新潟市の高杉です。よろしくお願い致します。</p> <p>農協に入りまして31年目に入りまして、農協に入ってからずっと営農指導という形で米や野菜にかかわらせていただいております。本年度、よろしくお願い致します。</p>

司 会	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、イオンリテール株式会社北陸信越カンパニー北陸信越統括部長の松井俊博様でございます。</p>
松井委員	<p>皆さんこんにちは。ただいま、紹介いただきました、松井でございます。</p> <p>昨年まで参加しておりました伊佐のほうが3月をもちまして定年退職ということで、私は3月にこちら新潟に着任させていただきました。よろしく願いいたします。</p> <p>前職、こちらに来る前は同じ、行政のエリア政策で北陸の方を担当しておりました。その前は、店長を10年くらいさせていただいて、お店の中で陣頭指揮を執っていたという形の経歴でございます。今後ともよろしく願いいたします。</p>
司 会	<p>ありがとうございました。</p> <p>また、本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、関係課は参加せずに人数を縮小して委員の皆さんのみで実施させていただきます。関係課への質問等がありましたら、後日照会し、回答させていただきますので、ご了承ください。</p> <p>続きまして、議事に入る前に、2点確認させていただきます。1点目は配付資料です。6種類の資料を机上に配付させていただいております。こちらの次第、座席表、委員名簿、資料1、資料5、参考資料としてSDGsの資料を配付しております。事前配付し、本日、お持ちいただいた資料と差し替えをお願いいたします。不足の資料はございませんか。</p> <p>2点目、会議の録音についてです。当会議は公開となっております。後日、ホームページ等で議事録を公開するため、会議の録音をさせていただきますので、ご承知置きください。</p> <p>本日、取材は来ておりません。</p> <p>これより、次第に従い、議事を進行いたします。</p> <p>ここからは、村山会長より議事を進行させていただきます。よろしく願いいたします。</p>
会 長	<p>よろしく願いいたします。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響で、ほとんどの会議がオンラインとなりまして、私たち大学でも授業もみんなオンラインというような状況の中で、本日は、お集まりいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>本日の議事の主要な部分は、市民アンケートについてと第4次の計画についてです。せっかくの機会ですので、存分にご意見を頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、会議を進行いたします。まず、議事（1）食育に関する市民アンケート調査について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>あらためまして、食と花の推進課の春川です。私から説明させていただきます。資料1と2をご覧ください。第3次計画の評価と第4次計画の策定に向けて、</p>

今年度実施する各種調査について、現時点での案をご説明させていただきます。業者からの助言も頂きながら、検討中の段階ではあるのですが、皆様からご意見を頂いて、反映させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

まず、資料1をご覧ください。今年度実施する調査が3つあります。まず(1)第3次、今の計画の最終評価のための市民アンケート調査を実施いたします。現計画の最終評価を行うことを目的として調査しますが、方法としては郵送調査になりますけれども、前回の食育に関する調査が平成30年度に保健所が実施しました食育・健康づくりに関する市民アンケート調査が最新の食育に関する調査になります。そちらは、回答が郵送のみで、回収率が全体で46.8パーセントでした。ただ、その中で20代から30代は回収数が220人、20代・30代の回答率は29.7パーセントということで、若い世代での回答率が低いという課題がありましたので、回答率向上を図るため、今回は郵送回答だけではなくて、インターネット回答もできるように取り入れていきたいと思っています。実施時期としては7月くらいで検討しているところです。対象者は20歳以上の無作為抽出の市民。また、予算の関係もありますけれども、1,000人または2,000人を対象にして実施する予定です。

調査項目としましては、資料2がアンケート調査の案になります。第3次計画の評価に必要な項目に絞って、現在は22問になりますが、項目を絞って実施する予定となっております。

資料2をご覧くださいなのですが、質問の内容としましては、性別と年齢と居住区をお聞きしてから食育に関するアンケートになり、食に関心がありますかということと、関心がある理由、生活習慣病の予防や改善のために実践していること、主食・主菜・副菜のそろった食事を何回しているか、普段ゆっくりよく噛んで味わって食べているか、日ごろ朝食を食べているか、食べていない人は、なぜ食べていないのかという理由もお聞きします。また、食材を選ぶ際に身近な場所をとれたものを選ぶようにしているか、食べ物を無駄にしないように何か行動しているか、あとは農林漁業体験に参加したことがあるかや、安全な食生活を送るために食品選択等の判断をしているか、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法が大切だと思うか、また、それらを受け継いでいるか、あとは共食に関する、友人や家族と食事を囲むことは大事だと思うか、食事は地域や家族、友人などと一緒に食べることはどのようないい点があると思うか、あとは、この1週間で朝食及び夕食を家族と一緒に食べた回数は何回か、最後に、日ごろ食育を何らかの形で実践していますかという設問を設定してあります。基本的には、現在の第3次計画の指標の評価に関する項目のみアンケート調査で入れる予定なのですが、問18に関しましては、直接指標には関わってはこないのですが、ただ、第3次計画の視点が食に関心のある人を実践に結びつけるというものを視点に入れた計画でありましたので、関心のある人を実践に結びつけられたか

どうかという評価のために問 18 も入れてあります。現時点でこの 22 問でアンケート調査をして、第 3 次計画の評価につなげていこうと考えております。

続いて、資料 1 に戻っていただきまして、2 ページ目をご覧ください。12 月に実施いたしました令和 2 年度第 2 回の会議の中で、子育て世代や学生など、重点ターゲットの食の実態や課題が把握できるように、もう少し入り込んだ調査を実施してはどうかというご提案を頂きまして、若い世代に対する実態調査の実施について、今、進めております。そちらが（2）の若い世代（学生および子育て世代）の実態調査です。

目的としては、第 4 次の計画の策定に向けて、食に関する課題が多い若い世代の食環境や食に関する意識について実態を把握して、計画に反映させるために実施しようと考えております。対象としましては、年齢ではなく属性で大学生と子育て世代の 2 つで考えております。まず大学生の方ですが、こちらはまだ案の段階になりますが、県立大学や医療福祉大学、新潟大学等の県内の大学へ依頼させていただいて、栄養や料理などの専門的な教育を受けていない学生を対象に、大学経由でインターネット調査で細かい設問にして調査できればなど。今、コロナ禍ということもありますので、学生と対面ということはなかなか厳しいと思いますので、インターネット調査をさせていただけたらなと思っております。こちらは特に村山委員や宮川委員など、大学関係の方から現実的に実施可能かどうかということをご助言いただけると助かります。

もう 1 つが、子育て世代対象の調査になります。こちらは 7 月に実施する予定です。これが食育に関する座談会と記載してありますが、栄養士との食事相談や保護者同士の座談会、交流をしながら、食に関する意見交換やヒアリング調査というものを実施したいと考えております。会場としましては、東区の東区プラザ、中央区のこども創造センター、秋葉区の新津健康センター、江南区の江南区福祉センターと区を分けて各会場 10 人ずつの計 40 人で考えております。やはりコロナ禍ですので、時間を分けて 1 回の時間を 5 人にして、それを 2 回で各会場 10 人の 4 会場 40 人で考えておりまして、40 人という限られた人数ですので、新潟市としての統計的なデータとはなりません、実際に市民の方の食に関する意識とか、考えを直接伺いするのがとても貴重な機会になるなと思いますので、こういった形でやらせていただければと思っています。

どういったところを聞き取るのかということですが、前回の会議でもお話しがありましたが、食育や望ましい食生活を実践できていない人がなぜ実践できていないのかなという仮説を立てたうえで、課題となっているところ、どういふことならできるのかなとか、そういった細かいところを聞き出せるような調査にしたいと思っています。起床時間や就寝時間などの基本的な生活習慣はもちろんになりますが、起きてから外出までの時間が 1 時間以内の人の 3 割が朝食を食べていないという国の調査結果もありますので、そういった基本的な生活習慣と食習慣というものは、切っても切り離せないかと思っています。

	<p>子育て世代に関して親の朝食だとか、食事の摂取とか、食べているか、食べていないかだけではなくて、どんなものを食べているかなとか、そういったところも聞いていきたいと思います。あとは食事の環境や市民の方が感じている食育についての漠然としたイメージ、「食育」と言われても、伝わらないというご意見も今まで頂いていましたが、「食育」と言われるとすごく理想が高くて大変そうだとか、何が「食育」なのかがそもそも分からないという方もいらっしゃると思うのですが、そういったところを直にお伺いしたいと思っています。季節のものや行事の料理を食べているか、知っているか、食について市に期待すること、こういったところを求めているのかも聞いてみたいと思いますし、食といわれたときに、食といってもすごく幅広い分野になりますが、その中で特に大切にしたいこと、重要視しているところはこういったところなのかとか、食育推進計画や市で取り組んでいる「食育の日」など、まだまだ波及ができていないなと思っておりますが、知っているのかも参考に聞いてみたいと思っております。こちらの調査項目はまだ定まっていないので、もっとこういうことを聞いたほうがいいのかとか、そういったご意見をぜひ頂戴したいと思っております。</p> <p>続いて、3ページ目が、第4次の新しい計画の数値把握に向けたアンケート調査を行います。令和4年度から始まります第4次の食育推進計画の指標に基づいた施策の達成状況や進捗状況の成果を検証するために、初年度の数値把握を行います。方法としては、(1)の調査と同じ無作為抽出の市民への郵送調査（インターネット回答も可）としますが、それプラス回答率の低い若い世代の回答数を補完するために、子育て世代を対象に追加で実施できればと考えております。期間としては、新しい第4次の計画の指標が決定してから実施になります。</p> <p>18歳以上の一般市民対象の調査と子育て世代も補完して、追加で実施する予定です。こちらに案①から案④までと書いてありますが、業者と相談しながら、予算や人員等のかねあいをしながら検討していくところですが、子育て世代からの回答も数百人単位で得られれば良いと考えております。</p> <p>今後の調査の実施予定についてですけれども、アンケート調査がなかなか毎年することが厳しい状況でして、今年度は初年度の数値把握のために実施して、令和8年度が第4次計画の計画最終年なので、令和8年度も調査を実施する予定となっておりますが、できれば令和6年度くらいに中間でも取れれば良いと考えておりますが、こちらも予算の関係で検討中となっております。</p> <p>現時点では、このように(1)、(2)、(3)という三つの種類の調査の実施を計画しているところで、分かりづらい点もあったかと思うのですが、これらのアンケート調査についてご意見ありましたら、ぜひ頂きたいと思っております。よろしく願いいたします。</p>
<p>会 長</p>	<p>まず、3つの調査があるということはよろしいでしょうか。そうしましたら、1つずついったほうがごちゃごちゃしいと思いますので、まず1点目の第3次計画の評価。今、現行の計画の評価のための市民アンケート調査について、この</p>

	<p>目的や調査項目まで資料1の1枚目にある内容ですけれども、何か質問等ありませんでしょうか。こちらは大丈夫でしょうか。アンケート用紙が資料2です。案としてついているものです。基本、評価のためのアンケートなので、計画にある内容について、事前調査と同じ内容を聞いていくということになると思います。こちらはよろしいでしょうか。</p> <p>おそらくいろいろご意見あるのは、その後だと思しますので、第4次に向けた調査に移っていきたいと思います。</p> <p>2番目の若い世代の実態調査は、どちらかというとアンケートだったり、詳細な意識を確認、聞いていくというような目的内容になっています。これを設定されたのが、前回の委員会の中で、複数の委員からも少し表面的な紙の調査では分からないような、なぜできていないのかとか、食に対する関心がないといっているのだけれども、どんなことなら関心があるのかとか、ない理由とか、背景とか、そういったことをもっと詳しく調べたほうがいいのではないかというご意見があり、それに基づいて設定されている調査ということです。ここは多分、いろいろご意見があると思いますので、まずこのインタビューというか、深く調べるほうの調査につきまして、ご意見をお願いしたいと思います。村井委員いかがでしょうか。</p>
村井委員	<p>大事なところだと思っています。子育て世代の各10人、コロナ禍ということで5人×2ということなのですが、もう少しどのくらいの方たちを対象に考えていらっしゃるのか。もう少し増えてもいいのかなという感じはしています。調査項目についてですが、今、村山先生からお話しあったように、突っ込んで聞いていくときに、おそらく「食育」ということを言われて、食の不安みたいな、今、コロナ禍ということもあるので、食に対しての不安みたいなものもかなり持ってらっしゃるようで、特に子育て世代の方、なかなか自宅で食事を作る機会が増えていますので、自分の作っている食事が果たしてどうなのかというような不安も多分持ってらっしゃるケースが多いように思うのです。ですから、そういったことの不安を聞き取ってあげるみたいな、そういう調査もあってもいいのかとは思っています。</p> <p>もう一つ、学生なのですが、SDGsやフードロスに関して非常に関心の高い学生が増えているようで、高校生からも月に1回、勉強会をやりたいということを先日、連絡を頂きました。ですので、ぜひ大学生のそういった食にまつわる意識を少し広げていただけたらいいのかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。今のような感じで、いろいろなご意見を頂ければと思いますが、食推の観点から和須津委員いかがでしょうか。</p>
和須津委員	<p>食推のほうからは、やはりこの年代というのは、私たちの活動の中で、なかなかアプローチが難しい年代になっています。どちらかというと高齢者のほうにアプローチすることが比較的が多いものですから、なかなかアプローチできなかったのですが、ぜひこの年代にアプローチしていただいて、これからの食に</p>

	<p>関する意識をどんどん上げていっていただきたいと思うので、ぜひこういった機会にこういうアンケート等を取っていただいて、アンケートを取ることで、また意識が変わるといふこともありますので、もっと広く、もっと大勢にアプローチできたらいいのではないかと思います。何かそういった方法があればと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。それでは、保育協会の猪俣委員いかがでしょうか。ちょうど子育て世代に接していらっしゃると思いますので。</p>
猪俣委員	<p>毎年、年度末になりますと、私どもの園では、食育に関するアンケートを毎年取り続けております。そういう中で、先ほど、村井委員がおっしゃったように、やはり困っていることはとても多いのです。お子さんが食べることにむらがあるとか、好き嫌いがあるとか、マナーのところで言うとじっとして食べないとか、困っていることといたらとてもたくさん出てきているような状況でございます。そういうことで、子育て世代の各 10 人、計 40 人というところは、健診に来られた方や遊びに来られた方というところからピックアップして、お話し、ヒアリング等をされるとは思うのですが、そうするとその数自体がもう少し余計でもいいのかと、先ほど、村井委員がおっしゃったように感じました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。ほかの委員の方で、何かご意見ございますでしょうか。私が、これを見て思ったことが、子育て世代の男女比がどうなのだろうと。女性が多くなりそうな気がしませんか。ぜひ男性も同じ量くらい取ってほしいなという感じが。大学生のほうはどちらも同じくらい聞けると思うのですが、子育て世代は何か女性のイメージになりがちなので、そこは注意していただければと思います。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。気になることなどございますか。</p>
松井委員	<p>先ほど、大学生だけではなくて、中高生にもアンケートを取れたら取ったほうがいいのかと思うのです。大学生は非常にいろいろな強制があって難しい部分があるのですが、やはり私自身もいつが一番食欲が旺盛だったかと言いますと、中学校のクラブが始まったくらいから、中、高、大というところは食べるものに対して、ある意味、人それぞれ価値観は、量が多ければいいとか、おいしいものをたくさん食べたいとか、全然食べるものに興味がないとか、いろいろな意見が一番たくさんあるのかなと。この期間が、逆に大人になってから、非常に食に対して、自分の子どもができたときなどに影響が出てくるような気がするので、この辺の意見は取っていったほうがいいのかと感じました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。ほかの委員の方にも聞いていったほうがいいと思うのですが、ここで大学生のほうの調査について、大学のほうで可能かという、実現可能性についてお話し伺いたいということでしたので、医療福祉大の宮川委員いかがでしょうか。</p>
宮川委員	<p>可能か不可能かと言えば可能であると思います。ぜひやっていただきたいなと、私は個人的には思っております。ただ、今、アンケート調査はとても難しい時期</p>

	<p>なのではないかと思うのですがいかがでしょうか。今、子どもたちは、黙食とか、大人でもそうですけれども孤食とか、なるべく人と交わらないで、楽しさということをしぐような形での食のあり方をすごく全国的にPRしていますし、またウィズコロナの状態では、そうでなくてはならないと、私もそれはよく分かるのですけれども、その状態の中で、アンケートの内容をウィズコロナという今現在の状況の中でのアンケート内容として取っていくのか、あるいはすべて元通りの世の中になるとは思いませんが、私たちの思い描く、家族で楽しくとか、栄養の偏らないとか、明るい食卓とか、そういうことをイメージしたアンケート内容にしていくのか。そのところが3次と4次では違ってくるのではないかと。まずそのことを私は強く思っております。それが第1点です。</p> <p>それから、大学生ですけれども、ここ1年半ほど、やはり大学校内に立ち入ることは制限されておりますので、私の大学でもリモート授業が中心です。ですので、学生たちの今まではすと昼ご飯の様子を目の当たりにすることができたのですけれども、現在、どのような食事状況なのかということは、正直言って、把握はできておりません。ただ、今までの様子から見ていると、ジャンクフードといいますが、そちらのほうが学生は多かったのではないかと思います。ただ、うちの大学は栄養学科もございますので、人数は少ないのですけれども、管理栄養士などを目指している学生もおりますので、そちらのほうに働きかければ、このアンケートにも何らかの影響といいますが、ご支援といいますが、大学としても貢献できるのではないかと、個人的には考えております。</p>
<p>会 長</p>	<p>ありがとうございます。確かに先生おっしゃるように、うちは新潟県立大学ですが、学生が少し来ているのです。一番多い日で百五十何人来ているのですが、食べる場所を限定して、席を空けるように指定していて、会話はなしで食べるということで、食べた後は消毒しろとか、かなり口うるさく言っていて、私が実は、その担当の教員なものですから、教室に観察に行くと、そうするとぺちゃくちゃしゃべっていると。そこに言って、そこはしゃべるなとかといってやっているのです。それを思い出して聞いていたのですが、そういう中での学生の食のイメージというものが、かなり厳しいというか、楽しいものではなくなっているのだらうなということをしごく感じます。ですので、やる時期も影響してしまうかなというようにも思いました。でも、そういう中で、どうやっていくかということを考えるのであれば、おっしゃったように3次と4次は違ってくるのではないかと、ポストコロナのもと、どう想定するかもありますけれども、そういう危機管理的な要素も出てくると考えれば、それを踏まえて、その前提でそういう状況なのだという前提で聞いていくということも1つかとは思いました。</p> <p>おっしゃるとおり、可能は可能、インターネットであれば、調査自体は可能だと思いますので、大学経由で可能と思います。</p> <p>それでは、ほかに公募の馬場委員はいかがでしょう。</p>
<p>馬場委員</p>	<p>すみません、まずはこの場を借りて、遅くなりまして、大変申し訳ありません</p>

	<p>でした。</p> <p>実際、子育てをされていて、東区プラザやこども創造センターにお母さん方は、多分0、1、2歳とか、3歳児くらいまでのお母様方が多いと思うのですが、おそらく悩みもそれぞれの年代で変わってきていて、これを見ると働いているお母さんの悩みがなかなか拾いづらいのかと思ったり、小学校高学年くらいになると塾に通い始めると孤食が増えるかなというような、周りを見てもそういう感じがするのですけれども、やはり中学生などの保護者の方の声もなかなか聞き取れないのかと思うので、そちらも拾えるといいのかとは思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。いろいろ意見を頂いていますが、隣のJAの高杉委員いかがでしょうか。</p>
高杉委員	<p>JAとしては、この世代の人が、どういうものを今、食べているのかということを知りたいと思いますし、今、かなりお米が余ってきておまして、1人1日1合食べると、大体、年間で55キロくらいになると思うのですけれども、もう少し食べていただけるような方策を農協も考えてはいるのですけれども、なかなか今、学校のほうもお昼なども皆さんで出ていけないので、実際、何を食べているのかということを知りたいと思いますし、若い世代から米なり、野菜を食べていただかないと、農家もどんどん作っても、売れない部分もありますので、ぜひこういうものが好まれているのかということを知りたいところであります。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。葛見委員いかがでしょうか。今、おうちで作って食べるということが増えている状況だと思いますので、そういった観点を踏まえて、何かご意見ございましたらお願いします。</p>
葛見委員	<p>おうちで作って食べているといった観点では、やはりスーパーマーケットですので、やはりそういったお客様が多いということで確かに増えています。ただ、どういった食事、食生活を送っているかという先のことは私たちも分からないので、確かにこういったアンケートは、大学生、子育て世代問わず、広く実施していただきたいと思っております。先ほど、馬場委員がおっしゃったように、子育て世代と言っても、いろいろな世代の方もいらっしゃると思いますし、あと働いているとか、そういった部分で環境の違う方はいろいろいらっしゃると思いますので、この対象者というものをもう少し広げる必要があるなと思います。ただ、どういったところでアンケートを取ればいいのかということが、私もぱっと出てこないのですけれども、例えば、私たちはスーパーマーケットですので、スーパーの店頭など、そういった部分でもご協力できる部分があったらぜひしていきたいと思うのですが、あとは大学生のところ、インターネット調査とありますが、今、休校やリモートという部分で、学校に来ていないという部分で、学生にはメールか何かでアンケートを求めるような形になるのでしょうか。</p>
会 長	<p>それは大学との相談ですよね。メールになるか、共通の掲示板みたいなのところがあって、そこにアクセスしてもらおうか、そこは大学との相談になると思います。</p>

葛見委員	<p>分かりました。なかなか広くアンケートを取ろうと思っても、まず学校に来ていないという部分で、なかなか回答がうまく集まらないのではないかとこの部分は不安があります。やはり中学校、高校と言った部分にもアンケートは広げていく必要があるのではないかと思います。せつくなら小学校も。そうすると、子育て世代も当てはまりますので、小学校のほうにお声がけして、親御さんにアンケートに答えていただくといった形をとってみたいかがかと思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。これはアンケートではないのです。もっと深くヒアリングするというイメージでとらえていただければいいかと思うので、今までアンケートはけっこうさんざんやってきて、傾向は分かっているのですけれども、なぜできる人とできない人がいるのかとか、関心を持っている人と持っていない人がいるのかとか、その違いとか、もう少し深く知りたいところを知ろうということが目的で、本当は大学生もヒアリングのほうがいいとは思いますが、なかなか大学に来ていなかったりして対面できないので、これはネット調査ということになっているのだと思います。ということで、アンケートはまた次の市民アンケートのほうになってくると思いますので、そこでまたご意見いただければと思います。</p> <p>あとは全員の方がおっしゃっていたと思いますけれども、食事を作る機会がすごく増えている。生鮮品が売れるようになったというお話をされていて、食事を作る機会が増えている。だから、食育には、これはチャンスな時期でもあるのではないかとこのことを考えると、作ることにする意識ということも入れていただくといいのかと思いました。ポストコロナの新しい潮流にもなるかもしれないです。</p> <p>それでは、時間も過ぎてまいりましたので、第3の市民アンケートのほうの内容について、伺っていききたいと思います。これは、ただ、第4次の食育推進計画がある程度、決まってこない、内容が定まらないということで、内容というよりは、大枠の対象とか、方法とか、それについてのご意見になろうかと思っています。分かりにくいのが、おそらく一般市民のほうは、今までと同じなのでいいと思うのですが、右側の子育て世代、若い世代の回答数が少ない。今まで少なかったもので、そこを補完するために追加で実施してはどうかというご提案で、案①から案④までございますが、これにつきましても、これがいいとか、悪いとかということよりは、こういった考え方についてどうだろうかということでご意見いただいたほうが。どこでできるかは実現可能性の部分もあったり、予算の部分もあったりして、ここで決められない部分もありますので、またこういった考え方、子育て世代に強化するということについていかがかということで、ご意見いただければと思います。あるいはもっとほかのところでもやってもいいのではないかとこのご意見。先ほど、小学校や中学校ということがここに入ってくるのですよね、案③とか。いかがでしょうか。これは次回のこの委員会が、先ほど少し伺ったのは、8月の頭を想定しているということなので、そこでもう一回、出てくるというこ</p>

	<p>とでよろしいですか。そうしましたら、そこでまたご意見いただければと思いますが、具体的な内容はよろしいですか、事務局のほうは。</p> <p>調査の対象のところで、気になることがあれば、今、お伺いしておきたいと思えます。</p>
村井委員	<p>私が把握していないのかどうかあれですが、若い世代の回答数が少ないということなのですが、なぜ少ないのかということの把握はできているのでしょうか。単純に関心が薄いとか、そういうことなのでしょうか。</p>
事務局	<p>あくまで推測なのですが、どうしても市役所のほうから発信する情報は高齢者の方に届きやすいといえますか、特に市報にいがたなどというものは、高齢者が子育て世代がよく読んでいらっしゃるという統計が出ていますし、とにかく市としても若いお人たちへどうやって情報を届けたらいいのかということは、ずっと課題なのです。ですので、役所が何かやろうとすると、伝わりやすいのは高齢者というところで、多分、アンケートもそれに引きずられているのかなというところがあります。</p>
村井委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>恐らくその部分がネックで、こういう調査というのは、多分、食育の調査というやはり若い子育て世代、学生を含めて、一番そこを知りたいということなので、可能かどうかは分かりませんが、例えば、このアンケート調査、インターネットで答えていただいたら、何らかのインセンティブ。せっかく答えていただいたのなら、例えば、キラキラマーケットだとか、こういうものがあるけれども、来られますよとか、ある程度、予算の部分とか、行政がやるものですから、公平性などあると思うのですが、そこに何かしら、若い人たちが、これだったら答えてもいいかな程度には思えるような、何らかのインセンティブがあるといいのかとは思いました。</p>
高杉委員	<p>けっこう直売所のツイッターで出すと、いもだったりとか、若い人は食いついてきます。</p>
松井委員	<p>要はアンケートを取る方法が郵送ということがメインになっていると思うのですが、例えば、若い世代が出ていく、集まるようなところにアンケートを取りに行く。もしくはそこでQRコードのチラシを配って、家に帰ってやらせてもらうとか、だから逆に若い世代はこういうことをやっているということをまず知ってもらうことが課題で、今、言ったようにばらまくと、高齢の方は行政のことに食いつくけれども、若い子は食いつかないということは、多分、若い人はそれなりに一本釣りしていかないとだめだと思うのです。そういう意味で、私のところは商業施設があるので、例えば、商業施設に来ていただいて、直接カウンターを設けて、そこでアンケートをお願いするとか、個別にラブラ万代など万代シティのところでやるという形にすれば、集中的に若い人をターゲットに声かけすれば、アンケートは取りやすいのではないかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。ほかに何かいろいろご意見を頂けると参考になると思</p>

	<p>いますので、頂ければと思いますがいかがでしょうか。事務局から、先ほど、大丈夫ですか。そうしましたら、次回の会議で中身が出てくるということでよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、アンケート調査関係は終わりにしたいと思います。さまざまなご意見を頂きましたので、それを参考に各種、アンケートに実施について、ご説明いただければと思います。</p> <p>続いて、議事（２）第４次新潟市食育推進計画骨子構成案について、事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>議事（２）について説明させていただきます。資料３と資料４を使って説明させていただきます。</p> <p>こちらで計画の基本理念や方針について、案を提示させていただきまして、皆様からいろいろなご意見をちょうだいしたいと思います。ただ、本日、お示ししている案については、こうしたいというよりは、これをたたき台としていろいろな幅広いご意見を頂きまして、それを基にこれから変えていきたいと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず資料３が第４次計画の骨子の構成案になっております。計画の構成としましては、計画策定にあたってというところと、現在の食を巡る現状と課題、そこからの第４次の食育推進計画、第４章で食育施策の展開、第５章で計画の推進体制という構成で考えております。</p> <p>２ページ目以降を開いていただくと、そのまたさらに中身が書いてあるのですが、本日、特に皆様からご意見頂戴したいなと思っているのが、３ページの第３章のところです。第４次食育推進計画についてですけれども、まず基本理念としましては、新潟市の食育推進条例に明記されているのですけれども、まず心身の健康の保持、増進、豊かな人間性の形成、感謝の念の醸成と自発的な意志の尊重。家庭が重要であるという認識のもとでの関係者の有機的な連携。特に子どもたちに対する積極的な取組み、生産者と消費者との交流による地域の活性化や環境と調和のとれた食料の生産消費というものが条例の中で、基本理念として掲げられています。このほかに、新潟市民が新潟の食へ自発的に関心と誇りを持って、環境に配慮しながら次世代へ引き継ぐということを目指して、第４次新潟市食育推進計画基本理念を設定していきます。今、こちらに基本理念（仮）で書いてありますが、今、すごく抽象的に書いてありますが、こちらも何か案があれば頂戴したいと思っています。</p> <p>基本方針については、資料４にもまとめてあるので、こちらをご覧くださいなのですが、まず第４次計画の策定の趣旨としましては、食育基本法に定める中で市町村食育推進計画として平成１９年に第１次の計画を策定しまして、以降、平成２４年、平成２９年に改定してきております。本計画は、令和４年度から令和８年度までの５か年計画として、食育を市民運動として推進し、施策を総合的かつ計画的に推進するために策定していきます。第３次計画、現計画に関し</p>

ましては「にいがた流食生活」の推進というものが施策の柱となっております。
「にいがた流食生活」は下のところにも書いてありますが、日本型食生活の実践、健康で楽しい食事、伝統的な食文化の継承、環境と調和のとれた食生活のことを「にいがた流食生活」と言っているのですけれども、それを推進することを施策の柱としております。

目標としては、健康や環境に配慮しながら、自らの食を「えらぶ」ことができる。食文化を受け継ぎながら、自ら「つくる」ことができる。生涯にわたって健康で楽しく「たべる」ことができる。にいがたの誇る豊かな食と農の体験を通じて生きる力を「育てる」という4つの目標を立てておりました。施策展開の視点としては、食育に関心があるものの、食育を実践まではできていないという人が多くいるということから、食に関心がある人が実践にも移せるようにということと、いろいろな食体験の機会を充実させようということと、体験機会の対象やテーマを子どもや若い世代というように明確化して取り組もうということと、食育の指導者の人材の育成と確保というものを施策展開の視点として取り入れて、計画を進めてきました。

現状と課題としては、こういった計画をもとに推進してきましたが、「食品の安全性」だとか「ゆっくりよく噛んで味わって食べる」など、世代により、一部の項目においては上昇が見られましたが、「食への関心」を含む多くの項目では数値が低下しておりまして、目標値に達しておりません。世代別では特に20代から30歳代において数値が低く、課題が多く見受けられるという現状です。

課題としましては、第3次計画でも重点としてとらえておりましたが、若い世代や子育て世代へ、施策が届いていない。本市の目指している「食育」について、もっと市民目線で分かりやすく、もっと浸透するように図っていく必要がある。無関心層の意識変容につなげるために、食体験を通じて楽しみながら、新潟市の食への関心や誇りを高める取り組みを進めていく必要がある。あとは食の「大生産地」であり「大消費地」である新潟市の特色を活かした施策を強化していく必要があるということが課題です。

そういった現状と課題をもとに、第4次計画では、方針として、新潟市の食への関心と理解と楽しく育てる食育の推進。あとはどんな世代でも、切れ目なく健全な心身を育てる食育の推進。そして環境にやさしく持続可能な食を支える食育の推進というところを方針として今、お示しさせていただいております。施策の視点としては、食育の対象はもちろん全世代になるのですけれども、その中でも学生だとか、企業だとか、子育て世代等の若い世代の属する対象へ特に重点的に取り組む。あとは調理体験、農業体験、収穫体験など、そういった楽しい体験を通じた普及となぜ朝ごはんを食べたほうがいいのかのだろうとか、共食すると何がいいのかのだろう、栄養バランスの整った食事をすると何がいいのかのだろうという、もう少しエビデンスに基づいて得られる効果。実際、結果得られる効果の啓発を推進していく。先ほども、コロナ禍の話がありましたけれども、新たな日常やデジタ

	<p>ル化へ対応した新しい発想の食育の推進というものが必要になってくるかと思っております。</p> <p>資料3の3ページに戻っていただきたいのですが、今、お話ししたように、2の基本方針のところでは、若い世代への食への関心度低下や共食の欠食など、多くの課題が第3次計画で残っております。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、家庭内食が増加して、新しい生活様式に対応したデジタル化の推進など、社会情勢の変化も見られる状況です。第4次計画では、こうした状況やこれまでの取組み成果と課題をふまえて、豊かな自然環境のもとで米、その他多種多様な食料が生産されて、都市と田園が共存しているという、新潟市の特色ある基盤を生かして、基本方針を設定し、食育の推進に取り組んでいきたいと考えております。</p> <p>こちらはまだ案の段階ではありますが、方針1として、新潟市の食への関心と理解を楽しくそだてる食育の推進。方針2として、切れ目なく、健全な心身をそだてる食育の推進。方針3として、環境にやさしく、持続可能な食を支える食育の推進と3つ現在挙げております。</p> <p>施策の柱として、方針1には、楽しい食育体験の積み重ねから、新潟市の食への理解を推進するということと。コロナ禍なのでこちら難しいところではありますが、「共食」を通じた食の大切さへの理解を推進。方針2に関しては、栄養バランスを意識して、望ましい食生活の実践や規則正しい生活習慣の定着、正しい情報の選択についての推進。方針3は、地産地消や食品ロス、新しい生活様式に対応した食育の実践というところで取組みを推進していこうとお示しさせていただいております。こちらたたき台として、特に基本方針のところや基本理念のところなど、幅広いご意見、アイデアをちょうだいできたらと思っております。よろしく申し上げます。</p>
<p>会 長</p>	<p>それでは、資料3と資料4について、さまざまな観点からご意見を頂ければと思います。特に基本理念と基本方針、どちらかでもかまいませんし、どの点でもかまいませんので、もっとこういうほうがいいのではないかとか、アイデア等あればお願いします。</p> <p>確認ですが、第3次のときは、目標というものがあって、1、2、3、4とあるじゃないですか。それは、第4次はどうなっているのですか。どういう提案になりますか。方針がそれに置き換わる感じですか。それともまた別の話しなのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今現在は、その目標まで至っておらず、まず方針のところに入っていますが、こういった「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」のような目標も残すべきかどうかということも検討していたところではありますので、そういったところもご意見いただけるとありがたいです。</p>
<p>会 長</p>	<p>あまり組立が違うと、継続性はどうかかと思ってしまうので、方針の下に多分目標が入るのですよね。</p>

	<p>それではいかがでしょう。また、それぞれのご意見を頂いていきたいと思いますが、松井委員いかがでしょうか。何か気になるところなどありますか。</p>
松井委員	<p>やはりこういう基本方針とかですと、基本方針の前に基本理念があるので、基本理念のところを皆さんと、それがいいというような形にしないと、この「未来へつなげる、にいがたの食育」といったときにイメージができない。極端な言い方ですけども、いいか悪いかは別にして、食の王国にいがたを食べようとか、要は食べることが一番大事だと思うので、実際、私も新潟に来て、この2か月いろいろなおいしいものをいっぱい食べさせていただいて、本当においしいものがいっぱいあると思うのです。それを新潟の方、新潟市民の方がきちんと自覚されているのかと。それを知っていただければ、新潟はおいしいものがいっぱいあるのだというところで、この基本理念のところをもう少しキャッチしやすい言葉にしたほうが、逆にその後の基本方針などももっと明確になるのかとは感じました。</p>
会 長	<p>この基本理念はまだ全然あれですよ。とりあえず仮置きしているというか、そもそも食育というものがここに入っても全然ぴんとこないと思うので。基本理念のところ、またいろいろのご意見を頂ければありがたいと思います。宮川委員いかがですか。基本理念にこんなものを入れたらどうかと。</p>
宮川委員	<p>私も松井委員のご意見に賛成なのです。いわゆるキャッチコピーですよ。イメージさせるための一番重要ポイントではないかと思うのです。ですので、目がとまるような言葉だと、今私自身は浮かばないのですけれども、お若い方の感覚で、ここは印象に残るような、あまり文系にとらわれなくてもいいのではないかと思います。この前にもう一つ、第4次の着地点はどこなのかと。この会議の1番最初の会でも思ったのですけれども、求めることが多すぎるように感じるのです。求める世代も多すぎるように感じるのです。もちろんそれが究極的には理想型なのですけれども、子どもたちも学校で多くのことを求められたら到達することができません。その中で、子どもたちに一番つけたい力とか、一番必要なこととか、絞りに絞って焦点を明確化しないと実現することは不可能だと思うのです。やればいいやとは決して思っていないと思うのですけれども、やはりやるからには、ある程度の実現性を持ったうえで進めていきたいなと、私自身思いますので、着地点をもう少し明確にして、やりたいことをもう少し絞って、あれもこれもとならないようなことをきちんと前置きしたうえで、ではそのためのキャッチコピーというか、基本理念はこうだねという方向へ持っていけるといいのかと、今さら、こんなこと遅すぎるのかと思うのですけれども、少しあいまいになってしまいましたけれども、そのように思っております。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。食育推進条例の基本理念が1から4まであって、これがけっこう幅広なので、何かぼやんとしてしまうのだと思うのですが、昨年度、もうずっと委員の皆様の中から、もう少し絞ったほうがいいというご意見もあって、そういう観点からでも今日、委員の皆様の中でどういうところにフォーカス</p>

	をしたらいのかということについてご意見を頂きたいと。多分、そういうことなのだと思いますが。
宮川委員	基本理念が4点あるからといって、この4点を第4次で全部網羅する必要があるのかどうか。例えば、第4次では、この基本理念の中のこの部分を集中的にやっつて、ここを何とか実現させたいとか、そういう考え方ではいけないのでしょうか。やはり4つあるとしたら、この4つを網羅しなくてはならないという方向性なのでしょうか。そこがすみません、私、把握していませんでした。
会 長	今のご質問に対して、事務局からありますか。
事務局	これを言うと元も子もないかもしれないのですがけれども、やはり役所の性質上、どうしても幅広の世代の方で、市民全員が対象になるということは、基本的には外せないところだと思います。ただ、委員もおっしゃったとおりですし、これまでの議論の経過、昨年も含めてですがお聞きしていますと、やはり若い世代ですとか、子育て世代というのがある種のメインターゲットになり得るのだろうなということは、皆さんの意見から分かっておりますので、あとは見せ方の部分で、キャッチコピーも当然必要だと思いますし、見せ方のところでターゲットを明確にしていくということは可能なのかとは今、思っていますので、どんどん皆様からご意見を頂ければ、そんな形で構築していけるのかと考えております。
会 長	若い世代や子育て世代に絞るということは、昨年度の経過の中で、それはすごくいいと思うのですがけれども、では若い世代、子育て世代がどうなることがいいのかということについて、皆様からご意見いただきたいということですよ。目指すこういう姿を目指しましょうと。そういうことをご意見いただきたいとは思いますが、村井委員いかがですか。まず、基本理念のところから。
村井委員	確かに皆さんおっしゃるとおり、基本理念のところはもう少し絞ったほうがいいことは、私も思いながら、いろいろと今、考えてはいたのですが、確かに行政のことなので、大きく網をかけるという意味では、「未来へつなげる、にいがたの食育」という食育という言葉をぼんと入れてしまうこと自体が、何かよく分からなくなってしまっているところがあるので、食育ということをもう少しかみ砕いて、分かりやすい言葉に変えていくといいのかとは思っています。 <p>というのは、先日、高校生のほうと話をしていたときに、SDGsと例えば、食について授業などで始まっているところがあるのですが、逆にそれがおもしろくないと。非常にまじめで大事なことは分かるのだけれども、事業としてはおもしろくない。でも、関心はあるのだと。自分たちが持っている関心をもっと聞いてほしい、伝えてほしいということを書いて、そういう意味で、食について関心がないという人は、多分いないと思うのです。ただ、食育と言われると、どうしたらいいか分からない。そのギャップをここでどう埋めていくのがポイントなのかと思っています。基本理念の部分は、もう少しかみ砕いていけばいいのかと。今、これがいいということが出てこないの、どうしようかとは思っていました。</p>

<p>会 長</p>	<p>私も実は似たようなことを考えていて、若い人たちが関心のある食。食の面で関心があるという部分がある、私たちがというか、ここで言っていることと少しずれている可能性もあったりする、それであれば、そちらに寄せていくということも、入口として一つは効果的なのかと思うと、先ほどのインタビューの中で、この基本理念のヒントになるようなことを聞いていく。関心があるかないかだけではなくて、多分あるのですよね。だけれども、いわゆるこちらがいうまじめな食のあり方みたいなものには関心がなかったです、だから、食について関心があるとしたら、どういうところにあったら関心があるかということが捉えられると、少し近づくのかと思いました。</p>
<p>和須津委員</p>	<p>食に関しては、すごく難しい面があるのですけれども、若い方々が何に興味を持っているかということは、すごく分かりにくかったりするのです。だから、それこそ最近のコマーシャルとか、テレビからのものをいろいろ見ていると、家で作ると先ほどもありましたけれども、家で作ることが増えたことによって、家族での時間が増えてきたということで、それこそ先ほどの話みたいに、コロナで孤食になって、家での団らんなどが減っていると思う反面、家で作って家族だけの時間が増えてきたということになると、家族の大切さや食の大切さというところにもう一回、フォーカスして試してみたらどうかという感じなのです。それでそれこそ、袋ラーメンでも、野菜をたっぷり入れて食べてくださいみたいな感じのコマーシャルが、いろいろな野菜をいっぱい入れて食べましょみたいな感じのコマーシャルがあったり、家族でいろいろアレンジして、いろいろな味にやってみましょとか、そんなことを子どもはすごく楽しく喜んで、実験みたいな感じで挑戦したりするところがあるので、やはり食にはすごく関心は持っていると思うし、家族のつながりなどもすごくあると思うので、そういったところにも目を向けてみるのもいいかとは思っています。</p>
<p>猪俣委員</p>	<p>日々、保護者と接してしまっていて、ほとんどの保護者の方が、わが子がすこやかに育てほしいという考えをお持ちだと思いますし、情報としてはとてもよく知っています。バランスよく食べなければだめなのだよとか、いろいろなところを少しずつ与えてあげなければだめなのだよとかおっしゃる保護者もいらっしゃいますし、情報としてはとてもたくさん持っているのですが、それをいざ実践するのがなかなか難しいということも聞かれます。どうしてもこういう推進計画となると、堅いような形にはなろうかと思いますが、いかに実践をもう少し取り入れやすいような内容といえますか、すぐ活用できるようなところも考えながら、計画の中に盛り込んでいかれたらいいのかと感じました。</p>
<p>会 長</p>	<p>葛見委員いかがでしょうか。基本理念、あるいは基本方針のほうに入ってもけっこうです。</p>
<p>葛見委員</p>	<p>方針といえますか、その先の話になって、施策の柱とか、そちらのほうになってしまうのですけれども、楽しい食育体験の積み重ねからとか、そういったふわっとしたことは書かれているのですけれども、実際にどういったことをするのか</p>

	<p>なというか、どういったことをしたくてこういう方針などを立てているのかが疑問だなということと、あとはやはりこういう体験とかということは、興味がある人だけが参加するような体験の話をしているのか、それとも学校なども巻き込んでやるようなことをするのか、そこが疑問です。市のほうでイベントなどを計画して、興味のある方は参加してくださいみたいな、そういうような。</p>
会 長	<p>計画の策定をした後の実践の話ですね。</p>
事務局	<p>そうですね。結局、計画を策定して、そうするとこれに基づきまして、各関係課のほうでいろいろな事業をそれに結びつけて実施していくという形になると思います。今日は、関係課は来ていないのですが、多数の関係課がおりますので、全庁的に食育に関係のある部門がやっていくということになるのです。</p> <p>プラス食育ですので、今、アグリ・スタディ・プログラムというものを市役所で学校と一緒に、教育委員会と一緒に農業体験などを子どもたちにしてもらおうということをやっていますので、そういった既存のものと新規のものを組み合わせて計画の下に実施する事業がぶら下がっていくという形になります。</p>
葛見委員	<p>分かりました。気になったのが、計画だけして、学校のそういった行事というか、事業に結びつかない方はどうなるのかということが心配だったもので、その部分は大丈夫です。</p> <p>やはり基本理念の部分ですが、皆さんおっしゃったように、食育というと、皆さんけっこう構えてしまって、素直に受け取れないというか、あると思うので、やはりここはかみ砕いた分かりやすい言葉に変えていく必要が私も思います。</p>
会 長	<p>それでは、高杉委員、理念と方針とあわせて、どちらかでもけっこうです。</p>
高杉委員	<p>食べることによって、健康になってもらうことが一番いいわけですね。病気にならなかつたり、高齢になっても寝たきりにならないというようなことで、食べることによって健康を維持していくということがあるので、理念は出ませんけれども、新潟を全部食べようみたいなことで、新潟には四季に応じてものすごいいろいろな野菜が採れますので、それをひとつお全部食べてもらえれば、ある程度、健康になると思いますので、子どもから大人になるによって、食の好みも変わりますし、どういう食べ方にするかによっても、おいしく食べられるという方法がいろいろあると思うので、子どものうちから食べ慣れないものも、食べ方によっておいしく食べられるようなものを提示してやればいいのではないかと思います。</p>
馬場委員	<p>基本理念の中にある、新潟市民が新潟の食へ自発的に関心と誇りをもちという文面が、私の中ではしっくりきて、多分、未来へつなげる食育と言われるより、自発的にこんなにおいしいものがある新潟だからといって、関心と誇りを持つねと言われたほうが飲み込みやすいかと思うのですが、基本方針の中に、新潟市の食への関心と理解を楽しく育てるとなっていて、急に、そう言われるとよく分からないのですが、食へ自発的に関心と誇りをすべての市民の人が</p>

	<p>持てたら、それが一番いいのかと思って、非常にここはいいなと、私は思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。基本理念の上のところに書いてある、これが目指す姿ということで、ここは共感できると。だとすると、基本理念の表現がもう少し違うということ。あとは方針のところも、特に方針1でしょうか。自発的という感じに受けないので、もう少し変えたほうがいいのではないかとご意見だと思えます。</p> <p>それでは、全体として、いろいろなご意見が出ましたので、基本理念については、もう1回、ご意見をふまえてお考えいただくということと、アンケートとインタビューなどからも参考にさせていただいて、組み立てていただくと。基本方針の3つなのですが、基本方針と施策の柱は大体、同じところですが、この3つの項目でいかがかということのついてはどうでしょうか。方針1が新潟市の食への関心と誇りを持つというようなことでしょうか。方針2が健全な心身をそだてるという食育。それもライフステージの切れ目なくという意味ですよ、小さいころからずっと。ただ、今回の若い世代、子育て世代にターゲットしたらどうかということですね。方針3が環境と持続可能な、SDGs的なものが入っているということで、この3つでよろしいでしょうか。あるいはもう少し違う観点を入れるとか、フォーカスするとか、ご意見がありましたらお願いします。</p>
村井委員	<p>私も方針1の新潟市の食への関心と理解を楽しくそだてるということが、正直言ってよく分からないのです。健全な心身をそだてる、これは健康の部分であったり、環境の部分であるということは分かるのですが、1の部分に関心というよりは、例えば、作ることの楽しさやおいしさであるとか、もう少し違った部分が入ってもいいのかとは思えます。あと1、2、3の最後に必ず食育の推進とついているのですけれども、これは入れる必要があるのかと。逆に入っているとうるさいような感じがして、ここは食育の基本方針ですから、要らないのではないかとと思えます。</p>
会 長	<p>方針1のところをもう少し具体的なイメージができるほうがいいということですよ。</p> <p>ほかにいかがでしょうか。</p>
宮川委員	<p>私も同意見です。例えば、方針3、環境にやさしく、持続可能な食を支えるうんぬんとあるのですけれども、環境にやさしくだったら、もったいないという心を持つとねとか、もう少しだれにでも伝わる、高齢者にも伝わる、子どもにも伝わる、その表現というものをもう少し考えるといいのかと思いました。特に方針3はSDGsというのですか、そちらに直結している部分だと思えますし、二、三年前に「もったいない」という言葉は非常にはやりましたけれども、やはりもったいないと言えば、お年寄りもすごく共感してくださるのではないかと感じました。だから、健全な精神などというと、やはりそこもすごく固くなってしまいますので、どうなのでしょう。風邪をひかない体とか、コロナにかからない健康な体</p>

	<p>とか、もう少しかみ砕いた、やさしい言葉こそが伝わるのではないかと思いましたが、それから基本理念に戻ってしまうのですけれども、こんな言葉は使えないと思うのですけれども、やはり若い子をターゲットにするのだったら、あの人たちがすごく今、ずっと興味関心を寄せてくれる、映えるとか、SNSの映像に載せるとか、時短料理とか、そういったワードもこちらのほうに持っている、あまり堅いお役所的、もちろんお役所の仕事なので、ある程度はしょうがないと思うのですけれども、やはりそこは現在の社会情勢に少し変えていくことも、伝統というのは守ることだけではなくて、変えていくことも未来への伝統につながっていくと思いますので、そういう若い子たちが敏感になるようなワードも、何とか組み入れていくことができるかというのかと思いました。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。ほかにお気づきの点がございましたらお願いします。</p>
松井委員	<p>皆さんの意見を聞いていて、当然、お役所がやっていることなので、言葉が堅いことは出てくると思いますけれども、こちら資料3の3ページ目にある四角で困っているところは、もう少し言葉をかみ砕いて、分かりやすいワードでもらって、それ以外のところはある意味、説明やルールみたいなものなので、どうしてもこのようになるのだらうと思うけれども、市民に発信するのは、この四角いところをメインで発信するという形で言葉を考えられたらどうかと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。よろしいでしょうか。</p>
和須津委員	<p>少しだけ、参考になるかどうかあれですけれども、方針1を見ると、大体のことが昨年度の第3次計画の目標のところにある「えらぶ」「つくる」「たべる」「育てる」ということが、全部ここに入って1になっているイメージなのです。それが楽しくこの4つのことができれば、1はOKかなという感じになりますし、2に関しては、心と体、健全な体を育成するという、心と体が元気なのは食べることで、食べることで心と体が元気というイメージになりますし、3はSDGsということを入れればということで、方針がその3本立てということになれば、今までやってきたことも、第3次でやってきたことも、たたき上げにつながってくるのではないかという気がします。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。それでは、ほかにはいかがでしょうか。よろしいですか。そうしましたら、議事(2)は以上とさせていただきます。たくさんご意見いただきましたので、反映して案を詰めていただければと思います。</p> <p>議事(3)に移ります。第4次新潟市食育推進計画の指標についてです。事務局よりご説明をお願いします。</p>
事務局	<p>基本方針のところについて、参考になるいろいろなご意見を頂きまして、ありがとうございます。第4次計画の指標については、何を指すべきかということがもっと明確になって確定してからの話になるかと思うのですけれども、これまでの会議の中で、指標は絞って明確化したほうがいいというご意見を常々頂いておりましたが、第3次計画の指標の中で、こういった項目を引き継ぐべきなのかとか、新たに加えるべきところはこういったところなのかということも第3</p>

次計画の指標を整理してみて、第4次計画に向けた検討というところで、事務局のほうで悩むというか、考えているところについて、ご意見を頂けるとありがたいと思います。資料5をご覧ください。

左側に書いてあるものが、今の第3次計画の指標になっております。現在の指標を第4次計画に向けてどう検討すべきかというところですが、今、「食(食事や食習慣)」に関心を持っている市民の割合という聞き方をしておりますが、これまでは「食育」に関心のある方と聞いていたのですけれども、「食育」に関心のある方と聞いても伝わりづらくて、第2次計画から「食(食事や食習慣)」というように指標の文言を変えているところです。こういった聞き方など、もう少しこれから検討していきたいと思っております。

あとは「共食」です。コロナ禍のこともあります。先ほど、和須津委員からもお話しありましたが、家庭内食が増えている今こそ家族での共食とか、そういった大切さも分かるのかなというところなのですが、共食に関する指標も継続するに当たって、一人暮らしや仕事などで共食できないという環境もあるかと思うのですが、共食は家族に限らず地域や友人だとか、子ども食堂などもあります。そういったところでもいいのかと、思っている中で、現在の指標が朝食または夕食を家族と1週間のうち何回食べたかという少し分かりづらい指標になっているかと思っておりますので、こういったところも今後、検討していきたいと思っております。

農林漁業体験を市民など、そういった体験については楽しみながら関心を高めるという視点の中でも必要かと思っておりますし、農との距離が近いということも本市の特徴の一つかと思っております。農業体験学習を実施している小学校の割合という指標に関しては、農業体験学習を実施したことによる成果指標とするために、アグリ・スタディ・プログラムを体験して、本市の農業への誇りが醸成されたと答えた小中学生の割合に修正して、にいがた未来ビジョンとも同じ指標に変えていければと思っております。これまで新潟市の食育マスターの派遣事業の実施回数やマスターの人数というものを指標に入れておりましたが、何回派遣したかとか、何人もマスターがいるかとか、そういったものよりは活動に重きを置いて、食育マスターから食育を学んだ人数や活動等に修正できたらと考えております。

あとは主食・主菜・副菜のそろった食事だとか、朝食の欠食については、規則正しい食生活の基本でもありますので、こちらは引き継げればなど、現時点で考えています。

持続可能な食、SDGsの観点で言えば、身近な場所で採れた食材です。地産地消に関する項目ですが、ここの質問の聞き方なども、これからの検討になりますが、新潟市産を選んでいるかとか、地産地消を意識しているかとか、こういった聞き方も一番市民の方に伝わりやすい聞き方ということを考えていきたいと思っております。

また、食べ物を無駄にしないように行動している市民ということも、食品ロスの観点になりますが、こういったところにも、環境部とも連携しながら、もっと

伝わりやすい聞き方の検討が必要になります。

学校給食における地場産物を使用する割合ですが、国のほうが地場産率を食品数という算出の仕方から金額ベースに変更にしたこともあって、新潟市のほうも今、変更について、教育委員会のほうで検討している最中ですがけれども、何パーセント使ったからOKだよねというよりは、市内産のものを使って、それを給食で活用して、そういった回数など、市内産のものを給食に入れて、それをどう生徒に伝えたかという活用のほうも大事なのではないかと考えておりますし、やはり給食に活用することによって、そこから保護者の方への波及効果ということもありますので、給食のうち何パーセントは市内産を使ったからいいよねというだけではなくて、その後のこともぜひ考えていきたいと思っております。

食文化のところであれば、地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法について、大切だと思う市民と受け継いでいる市民の割合というような2種類の質問がありました。SDGsの観点からも、伝統や食文化というところは大切な項目かと思うのですが、この質問の聞き方も一つに集約して、伝統的な行事や作法など、いろいろ選択肢があるような聞き方でなくて、もう少し郷土料理を食べているかとか、新潟の郷土料理を知っているか、食べているかとか、もう少し端的な質問のほうが分かりやすく答えられるのかと考えているところです。

次のページを見ていただくと、次計画へ引き継がないで、関連計画として位置づけてもいいのではないかと考えているのが、生活習慣病の予防や改善に関する項目です。こちら健康づくりの推進計画を保健所のほうでやっている計画にこういった項目が指標として設定されているので、そちらに位置づけることにしてはいかがかと考えております。

食品の安全性についても、R元年度の時点で20代から30代においては目標を達成しているということと、保健所の食の安全推進課の食の安全基本方針において「食の安心安全確保の取り組みを知っている市民の割合」「安全な食生活を送るために自ら食品選択等の判断をしている市民の割合」というものが指標として設定していますので、そちらのほうに位置づけてはどうかと考えております。

次計画に引き継がない項目としては、拠点施設です。食育・花育センターにおける食育の実践を促す実施回数ということで、料理教室を何回やったかという項目が入っていたのですが、これもアウトプットである実施回数であるので、こちら省いてもいいかなというところと、ゆっくりよく噛んで味わって食べる市民の割合というものも、平成30年度時点で目標を上回る水準に達したため、次計画に引き継がないというところで案を考えております。

SDGsに関して、参考資料としてカラーのものを一枚、本日、お配りさせていただきましたが、SDGsの目標17のゴールの中で、農林水産省のほうからも目標2の飢餓と目標4の教育、目標12の持続可能な消費と生産というものは、食育にかかわってくる項目であるということで、農林水産省の食育推進基本計画のほうにもSDGsの観点は取り入れておりますので、そういったところは次回の

	<p>計画の視点として入れていかなければいけないところだと思っております。こういった指標はまた、これから基本理念が確定して、市としてどういった人を増やさなければいけないのか。みんなにどうなってほしいのかということが確定して、また指標を考えていくことになるかと思いますが、現時点での第3次計画の指標を整理したときに、こういったところを今後、検討していきたいというところで、提示させていただきました。こちらに関しても、何かご意見があればちょうだいしたいと思います。お願いします。</p>
会 長	<p>今日、これで確定というわけではないので、お気づきの点やアドバイスがあればお願いしたいとのことです。当然、この指標というのは、計画の項目なり目標ができないと指標ができないので、ただ、考え方として、何かやったではなくて、その結果どうなったかということ把握していく必要があるのではないかと。その方向でシフトしたらどうかということですね。そういう点で、私が気がついたのが、若い世代をターゲットにしていくとすれば、若い世代を取り出した指標。同じ項目なのだけれども、例えば、主食、主菜、副菜など若い人はすごく悪いわけだから、若い人の例えば、20代、30代、どういう区切りにするのか分かりませんが、若い世代でどうなったかが分かるような、全体プラス20代、30代とか、若い世代の動きが分かるような指標の取り方も一つあっていいかと思いました。というのは、皆様からのご意見のように、何でもばらばらとやるのではなくて、フォーカスを当てた取組みをしていくべきだということがあって、今回もそういう方向で多分、整理されてきていますよね。そうすると、評価もそこで上がったかを見たほうが、多分適切なのかと。やってもいない世代ではなくて、きちんとやったところでどうなっているのかということを見たらどうかと思いました。</p> <p>ほかにお気づきの方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。</p>
高杉委員	<p>学校給食における地場産物を使用する割合で、この辺、もう少し新潟の市場なり、仲卸なりと農協が協力すれば、もっと上がると思うのです。今、一部、学校給食にいつているものがあるのですけれども、そこはどのようになっているのか、なかなか分かりにくいのがかなりあるので、今までも会議も前はあったような気もするのですけれども、この辺、整理すれば、四季ごとにかんりの農産物がありますので、学校がどういふ野菜を使っているかも把握した中で、協力していければと思います。お願いいたします。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。ほかにはいかがでしょうか。今の高杉委員のところですが、学校給食を活用し、地場産物について指導した回数も指標に含めるべきかとあるのですけれども、これは分かるのですか。把握できるのですか。</p>
事務局	<p>教育委員会との検討になるのですけれども、栄養教諭の方に年間にどのくらい指導を、例えば、放送で話したとか、おたよりに入れたとか、生徒に直接指導したとか、年間でどのくらいやったかという調査を取れば、把握は可能だということなので、こういうこともできなくはないのですが、検討のうちの一つとして考</p>

	<p>えているところです。</p>
松井委員	<p>学校給食の件については、私どもも、食育の中でここは大事だなと思っていて、地場産物を使用する割合というより、地場産物を使用するにしたほうがよくないですか。</p> <p>学校給食は週間や月間で予定を組まれますよね。その中で、例えば曜日で月曜日と水曜日は新潟産の食材を使っていますとか、毎週何らかの形で入るようになったら、これは新潟産の食材ですとか、子どもや父兄の方が分かるような形にするとかとしたほうが、地場産商品を食べるということに対して、非常にいいのではないのかと思うのと、あとは細かいことで、言葉の遊びみたいになってしまうのですけれども、身近な場所で採れたというより、地元でいいのではないですか。食育から食を取って、その後ろに括弧があってというより、食べることでいいのではないですか。食べることに関心を持っている、でいいのではないかと。だから、先ほどあったように、言葉をもっと簡単な言葉に、食べ物を無駄というよりも、もったいないとか、そちらのほうがより伝わりやすいのかなという部分があるので、そういった形も取り入れていただきたいと思います。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。市民に分かりやすい表現にということで、いろいろご指摘いただきました。ほかにはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。</p> <p>そうしましたら、委員の皆様から頂いたご意見を基に、次回の会議に向けて、計画の骨子案、数値指標の整理を進めていただければと思います。</p> <p>ほかにはないようでしたら次に移ります。「全国食育推進ネットワーク（みんなの食育）」について、事務局からご紹介を頂きます。お願いします。</p>
事務局	<p>資料6をご覧ください。こちらは、情報提供になります。こちらは農林水産省が事務局となって運営を今年度から始めました、全国食育推進ネットワークというものになります。表紙をめくっていただくと中身が書いてあるのですが、食育基本法が制定されてから15年が経過しまして、全国各地で食育関係者がそれぞれの立場で食育活動に取り組んでいます、それぞれがさまざまな課題を抱えている状況という中で、そういった課題解決に向けて、幅広い食育を関係者が参画する業種を越えたネットワークを作って、それぞれの活動を生かしながら連携・協働することで、より一層の食育の推進に資することを目的として作られたものになります。こちらは、企業、団体、個人を問わず、食育に取り組んでいる食育に関心のある方どなたでもご参加くださいというものになりますので、皆さんもぜひご興味ある方はご参加いただければと思います。新潟市もこれから加入させていただきまして、本市の取組みを紹介させていただいたり、他団体の取組みの情報も広く収集して参考にしながら食育の推進を図っていきたいと思っております。</p> <p>また、食育マスター制度に関しましても、派遣制度から紹介制度に変わったことで、つながりが薄くなってしまったなと感じるところもありまして、こういったネットワークのようにマスターや食育関係の団体ともつながりを持ちながら、</p>

	<p>食育に関する情報を共有しながら活動を広く周知できるように力を入れていきたいと考えているところです。以上です。</p>
会 長	<p>今のお話につきまして、何かご質問等ございますか。</p> <p>それでは、その他になります。委員の皆様より、何か報告事項がありますでしょうか。</p>
村井委員	<p>報告というよりは、本来もう少し最初のほうで言わなければいけなかったのかなと思いつつ、いつ言おうかと思つてずるずるきたのですが、共食の指標の話も出しましたが、コロナ禍ということで、今は非常に食にアクセスするのが大変な方たち、貧困層も含めてですので、子ども食堂が非常に重要な役割をこれからも果たしていきたく思っています。子ども食堂の普及であるとか、あるいはフードバンクですね。第4次食育推進基本計画の中にも、貧困等の状況にある子どもに対する食育の推進ということで、子ども食堂の部分が入ってきていますので、ここをもう少し新潟市の食育の中に入れられないかなとは思っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。頂いたご意見をまた反映していただければと思います。ほかにはいかがでしょうか。</p>
宮川委員	<p>皆さんのお話の中で、家で料理する機会が増えたとか、スーパーへ行く機会が増えた。それも事実なのだろうと思うのですが、我が家ではむしろ、テイクアウトやお取り寄せとか、そちらのほうにも関心が高まったのです。若い人はどちらかというと、家で当然作って、SNSに載せたりということも積極的にやっているでしょうし、全国ネットでの自分が好きなものとか、興味があるものを取り寄せたりとか、テイクアウトのお店が増えましたよね。それからお弁当も随分増えてきたように思うのです。その辺りが第4次プランニングの中に、どのように載っていくのかと、個人的には興味を持っています。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。取り寄せやテイクアウトなど、新しい動きもある中で、食育をこの計画にどう入れ込むかですよね。それも大きな課題かと思えます。ほかに気になること、この際、もう少し時間がありますので、ご自由にご発言いただいで大丈夫です。</p> <p>私、実は国の厚生労働省の研究班で、このコロナの影響、食生活に対する影響というものを研究してしまして、今、2つの研究班が動いてやっているところで、やはり両極化している、今、宮川委員からお話しあったように、すごく家で作るようになって、食事を見直したとかという層と、そうではないという層の二つに、割と二極化してきている、成人の若い層は特にということとか、私たちがやった調査では、子どもなのですけれども、幼児の調査と小中学生の調査をやったのですけれども、どちらも村井委員がおっしゃった、今度は経済的な条件による差が激しくなっていると。例えば、所得の低い層だと、主食だけの食事が増えたり、あとはお菓子が増えている。多分、親が忙しくなっているのか分からないのですけれども、子どもがお菓子だけの食事になっていたりとか、そういう差が激しくなってくるのが、これからの状況ということも考えられるので、そこへの配慮と</p>

	<p>いうものも、1つ必要なのかと思って、1つ情報提供です。 ほかにいかがですか。</p>
村井委員	<p>情報提供という意味では、今、先生がおっしゃったように、両極化がかなり進んでいると。そういった過程であるとか、子どもたちを一番身近にキャッチできる町内会、あるいは自治会といったような組織だろうと思うのです。先日、自治会で私も今、班長みたいなことをやらせていただいている、役員会に出ているいろいろお話をお聞きしたところ、子ども食堂を私のところは、西の寺尾朝日通自治会ですが、4年ほど前に子ども食堂をやろうかという話があったようなのです。ですがどうやっていいのかとか、どこに聞いたらいいのかとか、あるいは何か問題があったときにどうすればクリアできるのかといったことをどこに聞いていいかわからなかった。結果、やりたいという気持ちはいっぱいあるのだけれども、話が立ち消えになってしまったのですよと。ですので、そこを例えば、市なり、あるいは行政のほうから各自治会やそういったところに、もしやるのであればこういうアプローチがありますよとか、そういうアナウンスがあれば、ぜひやってみたいというようなお話が出ていました。そういう自治会ならではの、その地域にどのような食の状況があるのかということが、非常に分かりやすくなりますので、逆にそういったところからアンケートであるとか、そういう情報提供みたいな形で、市とのつながりをつなげていくという意味では、すごくこのコロナも含めて、非常にいいタイミングなのかとは思いました。</p>
猪俣委員	<p>食のスタートをどこの時点で考えるかと言うこともいろいろ考え方があろうかと思えますし、母子保健の範ちゅうにもなろうかと思うのですが、やはり保護者を見ていると授乳や離乳食のつまずきというものが、とても多いように感じられます。そういう離乳食や授乳に対する食のスタートというそのところもどこかで盛られたらいいのかとお願いしたいと思えます。</p>
会 長	<p>子育て世代のところに重点を置くということなので、その辺も重点にしたらどうかということです。ありがとうございます。</p>
馬場委員	<p>先日、うちの小学校で、こども食育新聞というプリントが配付されまして、私も子どもを通して見せてもらったのですけれども、非常に分かりやすく、子どものお友達が、すごくこれが好きで、給食室に貼ってあるものをいつも楽しみに見ているという話を聞いたので、お伝えしたかったです。</p>
事務局	<p>うちの課で発行しているものなのですが、年に4回発行していて、ただ、予算の関係もあって、基本メールで学校に送らせていただいて、学校でご活用くださいというものなのですが、今回の3月のものに関しては特大号ということで、全小学生に配付させていただいたものになります。参考にお配りさせていただきます。新潟のお米について特集させてもらって、小学校5・6年生向けの内容になっていますが、今回は全生徒に配らせていただきました。ありがとうございます。</p>
会 長	<p>今、資料が配付されるということですが、それ以外にいかがでしょうか。</p>

和須津委員

食推のほうからも1つ。食推は、食生活改善推進委員協議会とすごく長い名前ですけれども、何をやっているのだろうこの人たちというように、少し分からないという方も多いかと思うのですけれども、私たち、それこそ行政と協力して、昨年度の第3次のときは、作るとか、育てるといったところの観点で調理実習をやったり、パッククッキングなどで食に関しての興味を持ってもらったり、あとは食に関する啓発なりを地元の人たちを集めてやったりするのですけれども、昨年、私のところで高校に学生対象に委託事業がありまして、高校にお弁当づくりの事業で入ったのですけれども、子どもたちがすごく食に関して興味を持ってきているということがあって、今まではなかなか学校に入ることが難しかったですけれども、そういう機会さえ頂ければ、私たちも一緒になって、学校に入って、食事を考えるちょっとしたアドバイスができるのではないかとということもあります。

それでいくと、またここにあります新潟の郷土料理をどんな感じで食べているかとか、知っているかといった場合、新潟はすごく食文化が豊富で、いろいろな食文化が混在しているので、どれが新潟の郷土料理かと言われても、のっぺや笹団子やおこわと言ったところで、あまりそれが新潟の郷土料理ということが、またははっきり言えるようなものが少ないのです。日ごろ、食べているものの中に、地元の地産地消の地元のお野菜を使った煮物などといったものが中心になるのだと思うのですけれども、やはり煮物だと塩分が高くなるとか、塩分を控えるにはどうしたらいいかということも、私たちもすごく考えて、お出汁をしっかりとって、お酢を使ったり、そういったことをすることによって、地元のお野菜をもう一品、お野菜を食べていただくだけでも、塩分を削減することができるのですよと。お野菜やフルーツを食べることによって、塩分を出すことができるから、お野菜をもう一品増やしてくださいという運動や啓発を地元でやっているのですけれども、なかなかお野菜をもう一品増やすということが難しく、若い人たちに話を聞くと、お出汁を取って一から何かを作るということが、やはり忙しい中で大変だと。

最近、私たちにそういう話が出てくると、コロナ禍なので、調理実習ができなくて、活動ができない。だからどのような活動をしたらいいかということで、パッククッキングなど、袋に材料を入れて災害時だけではなく、日ごろ皆さん一人前から作ることができるので、日ごろの料理をこのような感じで作ると、何種類も一遍に作れるから、時短になりますよといったアドバイスなど、コンビニで買ったものやスーパーで買ったものでも、味が少し濃いということがあるので、それに別なお野菜を足してかさ増しをして塩分を落とすとか、マンツーマンでみたいな感じの地元で根ざしたお手伝いを、アドバイスをしながら活動しているのですけれども、そんなことはやっているわけですが、ここで行政の上のほうで食育と考えたときに、私たち地元の人たちの声を聞きながら活動している中で、やはり一つ一つはすごく大事なことなのですけれども、こう下りてくると全部大事。

	<p>全部大事なので、それが昔のおばあちゃんの知恵袋ではないですけども、そういった昔から伝わっていることは意外と大事なのだということが最近、特に感じられるので、そういったところにも観点を持っていくと、郷土料理というものが、どういうものを郷土料理というのかとか、新潟の食文化などをもう一回、見直してみたいなところを考えるだけでも、郷土料理に対しての知識が増えるので、そういったことにフォーカスしてあげるといいのではないかと。少し長くなりましたがすみません、お願いいたします。</p>
会 長	<p>ありがとうございます。私も、2項目指標にありましたよね。これは何を言うのかと。多分、今の学生が聞いたら、ソースカツ丼とか言うのかと思ってしまったりして、その辺も整理が必要かと思いました。ありがとうございます。</p> <p>最後、いろいろ盛り上がりましたが、時間となりましたので、本日の議事を終了したいと思います。活発なご議論ありがとうございました。事務局にお返しいたします。</p>
司 会	<p>村山会長、議事進行いただきまして、ありがとうございました。今、お手元に先ほどお話に出たことも食育新聞と、今日、新潟日報でも掲載されたもったいないレシピをお配りしましたので、後でご覧いただければと思います。</p> <p>それでは、連絡事項に移ります。3点ございます。</p> <p>1点目は、次回の会議の日程についてです。今回の会議が、昨年度末の会議がずれましたので、本来であれば、今年度第1回目として予定していました会議を8月上旬に予定しております。これからまた日程調整をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>また、昨年度の第1回目の会議で、このようなフォーマルな会議以外でも意見交換できる場を別に設けたらどうかというお話を委員からご提案いただきましたので、8月の会議の前にも、ぜひ開催できればと考えております。今日も活発なご意見を頂きまして、またさらにより中身を深めるような感じでどうかと考えておりますので、後日、また日程ややり方などを調整させていただきますので、ご都合のつく方は、ぜひご参加をお願いいただければと思っております。その場合、大変申し訳ないのですが、報酬については発生しませんので、その辺、ご理解いただいたうえで、ご参加いただければと思っております。</p> <p>2点目は、今回の会議の報酬についてです。こちらについては、先回同様、指定口座に後日、振り込ませていただきます。</p> <p>最後3点目、駐車券についてです。無料になるサービス券と一緒に受付のテーブルに置いてありますので、忘れずにお持ちください。</p> <p>以上をもちまして、令和3年度第1回食育推進会議を終了いたします。</p> <p>お忘れ物のないよう気をつけてお帰りください。お忙しいところ、ありがとうございました。</p>